

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2 単位	学年	1 年	コース	選択
使用教科書	光村図書「書 I」			使用副教材等	なし				

目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。	書よさや美しさを感じ、意図に基づいて構成し、表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができている。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うことができている。
評価方法	・表現を工夫して表した成果(作品) ・鑑賞の記録(ワークシート・発表等)	・表現を工夫して表した成果(作品) ・表現の意図 ・構想 ・取り組みの記録(ワークシート等)	・作品制作への取り組み状況(活動の様子) ・学習活動への参加状況(出席状況・学習態度・発表等)

担当者からのメッセージ	書道 I の授業を通して、多様な古典作品に触れ、書体や字形についての知識を身に付けましょう。その上で、道具を正しく使ったり選んだりしながら臨書活動に取り組み、技術力の向上を目指します。また、一年を通して様々な創作活動に取り組み、自己表現したり、鑑賞を通じて他者との交流を深めたりしながら書を愛好する心情を育みましょう。
-------------	---

学期	月	学習内容 学習のねらい	観点別評価規準
1	4 5 6 7	1、「漢字の変遷とさまざまな書体」 漢字の5つの書体を理解し、それぞれの字形や線質を理解できる。 2、「唐の四大家に学ぶ楷書の基本」・「孔子廟堂碑」・「九成宮醴泉銘」・「雁塔聖教序」・「顔氏家廟碑」・「牛橛造像記」 唐の四大家の代表作を知り、書道史において果たした役割や位置づけに関連付けて理解できる。用筆や字形を意識して臨書することで筆使いを身に付ける。 3、「鑑賞を始めよう」 4つの古典から受ける全体的なイメージを表現できる。	【知識・技能】 日本及び中国等の文学と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、各書体特有の字形や線質について理解している。 【思考・判断・表現】 楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫している。楷書の古典の価値とその根拠について考え、書の良さや美しさを味わおうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心を養おうとしている。
2	9 10 11 12	1、「蘭亭序」「争坐位文稿」「蜀素帖」 行書の成立過程や通行書体としての性質を確認し、楷書と比較して、点画の丸み、連続、省略などの特徴を理解できる。 2、「風信帖」 空海の人物像や書道史における位置づけについて理解できる。 3、「真草千字文」 鑑賞・臨書し、草書の特徴である点画の連続や省略、柔らかく丸みのある用筆などを理解できる。 4、「篆刻」 撰文・検字から押印・補刀までの制作手順を理解できる。白文印か朱文印かを選び、印の制作ができる。 5、「仮名の成立と種類」「平仮名」 漢字の伝来から仮名の成立に至る過程で発生した仮名の種類を理解できる。仮名特有の用筆・運筆を習得できる。平仮名の字源を知り、正確に字形を捉えることができる。 6、「古筆を生かした創作」 これまでに学習した古筆を参考にしながら作品の構想を練り、平仮名の組み合わせ方や連綿の仕方、用具、用材、全体構成を考えることができる。	【知識・技能】 行書・草書・仮名の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身に付けようとしている。 【思考・判断・表現】 行書・草書・仮名の古典の書体や書風に即した用筆・運筆・字形、全体の構成について構想し、工夫しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 幅広い表現と鑑賞の学習に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心を養おうとしている。

3	<p>1、「漢字仮名交じりの書」 漢字仮名交じりの書を鑑賞し、漢字と仮名の調和や表現の特徴を理解できる。</p> <p>2、「心に響く言葉を書く」「好きな言葉を書こう」 好きな言葉を撰文し、書体や書風、紙面構成を工夫できる。</p> <p>3、「生活の中の書」 基本的な手紙や封筒、はがきの書き方を理解できる。送りたい人への思いを表現できる。</p> <p>4、「さまざまな構成方法」 散らし書きや行書きの技法を理解できる。紙面構成を考え創作し、鑑賞できる。</p>	<p>【知識・技能】 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じり文の成立について理解している。目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p> <p>【主体的に取り組む態度】 幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養おうとしている。</p>
---	---	---